

公益財団法人日本美術刀剣保存協会 令和元(平成31)年度事業報告及び決算報告

I 事業の実施状況

1. 博物館事業

- (1) 展示事業
令和元年度刀剣博物館の展示活動及び入館者数は22ページ表1の通り。
- (2) 鑑賞会事業
定例鑑賞会
定例鑑賞会は、8月・11月及び12月を除く毎月第2土曜日午後1時から当協会講堂において開催しました。鑑賞会には平均七十一名の出席があり、刀剣の鑑賞並びに鑑定刀の入札及び当協会学芸員による解説を行いました。また定例鑑賞会にあわせて、平成24年9月から刀剣を手にとりて鑑賞したことの無い初心者の方向けの刀剣の扱い方、鑑賞の方法を学ぶための「日本刀鑑賞マナー講座」を予約制で開催し、修了した方には修了証を発行しており、令和元年度は一五九名の参加者がありました。その他協力団体が公益事業として開催する鑑賞会に、依頼により鑑定刀の貸与及び講師の派遣を行いました。令和元年度は六七件の依頼があり、刀剣類五点を貸与し、鑑賞の指導を講師(当協会学芸員)が行いました。協力団体開催の鑑賞会の平均出席者は二六名でありました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大状況を鑑み、3月開催の定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座及び講師派遣は中止いたしました。
- (3) 作品発表会(現代刀職展)
新作名刀展(作刀、刀身彫、彫金の職方の作品)及び刀剣研磨・外装技術発表会作品展(研磨、白鞘、刀装、柄前、白銀の職方の作品)を改組した二〇一九年度現代刀職展を開催しました。この展示は、現代作家の作品発表の場の提供及び多くの方に技倆の高さをアピールすることを目的としており、令和元年7月6日(土)から8月18日(日)までの開催期間で、六、六四〇名のお客様にご来場いただきました。
- (4) 古伝書等の公開
当協会収蔵の古伝書、一般刀剣関係書籍等を月曜日から金曜日の10時から16時(12時から13時を除く)まで事前予約制で一般の利用に供しました。入室、閲覧は無料とし、コピーサービス(有料)も提供しました。令和元年度は二四件の利用がありました。
- (5) 刀剣相談
当協会に来館、または書面、電話での刀剣等に関するあらゆる相談を受け付け、刀剣類の文化財としての位置づけを認識していただくと共に、刀剣類の手入れ方法や保存方法についても助言いたしました。また銃砲刀剣類所持等取締法に基づく所轄警察署への届出等、関係法令の周知徹底を図り、各都道府県教育委員会への登録申請の相談も受け登録業務に協力いたしました。
- (6) 広報誌の発行
令和元年度は広報誌『刀剣美術』を74号から78号まで発行いたしました。当協会の編集委員及び編集担当職員が毎月編集委員会を開催して内容を検討し、投稿された刀剣関係の論文、随想、資料の紹介等の掲載の他、定例鑑賞会の報告及び当協会や刀剣界の情報発信源として、また刀剣類の知識の向上を目的として会員の皆様への配布のみならず、刀剣博物館においても一般に販売いたしました。
- (7) ホームページ活用
『刀剣美術』誌と共に、当協会や刀剣界の情報発信源として活用してい

表1

展示名	期間	一般	会員	招待	学生	中学生以下	団体	ぐるっとパス利用者	計(人)
日本刀の見方 パートⅠ 姿	4. 13～ 6. 30	11,481	220	675	1,174	1,098	313	1,537	16,498
2019年度 現代刀職展— 今に伝わるいに しえの技—	7. 6～ 8. 18	3,893	94	319	920	615	115	684	6,640
平成の名刀・名 工展	8. 24～ 10. 6	3,567	94	220	436	440	53	683	5,493
日本刀の見方 パートⅡ 地鉄	10. 12～ 12. 23	5,899	259	419	762	667	110	1,043	9,159
第65回重要刀 剣等新指定展	R2. 1. 11 ～ 2. 16	3,215	148	273	383	683	43	632	5,377
日本刀の見方 パートⅢ 刃文	2. 22～ 3. 31※	831	20	40	84	44	0	113	1,132
合計		28,886	835	1,946	3,759	3,547	634	4,692	44,299

(うち 外国人10,903)

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休館要請に基づき、3月2日から休館。なお、予定会期は6月21日まで。

- るほか、刀剣の知識が学べるようなページを構成しています。
- また『刀剣美術』誌の記事の一部を英訳してホームページから見ることができるようになり、海外の研究者、愛刀家等の要望にも応えています。引き続き会員の皆様をはじめとしたお客様に分かりやすい情報発信に努め、お客様とのコミュニケーションツールとして運用してまいります。
2. 教育、講習事業
- (1) 刀職技能訓練講習会
- 刀職者の技能向上とその普及を目的として、主として西日本エリアを対象として行っているこの講習会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページ、刀剣博物館掲示板で研修生を募集し、令和元年度で33回を数え、備前長船刀剣博物館において令和元年6月20日(木)から6月23日(日)の4日間開催いたしました。
- 講習部門は「柄下地の部」と「刀装金具の部」の2部門で、「柄下地の部」は柄巻師の無鑑査認定者の講師により「柄下地と鯨着の関係」を講習テーマとして実施し、受講者は五名でした。「刀装金具の部」は白銀師の講師により「刀装の鑑の制作」を講習テーマとして実施し、受講者は10名でした。また、最終日の閉講式において受講生に対し受講証書を交付いたしました。
- (2) 第52回刀剣研磨・外装技術研修会
- 刀職者の技術の向上とその普及を目的とするこの研修会は、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、当協会講堂において令和元年7月29日(月)から8月3日(土)までの6日間開催いたしました。研修部門は、「研磨の部」「鍛冶研ぎの部」(前半3日間)及び外装の部として「白鞘の部」「柄前の部」「白銀の部」(後半3日間)であり、「研磨の部」は研師の無鑑査認定者の講師により、「仕上げ研ぎ」を研修テーマとして実施し、特別研修生六名、研修生二名、聴講生八名の参加がありました。「鍛冶研ぎの部」は刀匠の無鑑査認定者の講師により「鍛冶研ぎの基礎技法」を研修テーマとして実施し、特別研修生二名、研修生一名の参加がありました。「白鞘の部」は鞘師の講師により、「白鞘の基

「基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生一名、聴講生二名の参加がありました。「柄前の部」は柄巻師の講師により「止めの基礎技法を中心に」を研修テーマとして実施し、特別研修生一名、研修生三名、聴講生二名の参加がありました。「白銀の部」は鑑査師の無鑑査認定者の講師により、「二重鑑の基礎技法」を研修テーマとして実施し、研修生一名、聴講生六名の参加がありました。

また、3年間の研修修了者は、研磨の部の特別研修生三名、鍛冶研ぎの部の特別研修生一名、柄前の部の研修生一名がおり、修了証書を交付し、その他研修生、聴講生にそれぞれ研修証書、聴講証書を交付いたしました。

(3) 第37回作刀技術実地研修会

この研修会は、文化庁の作刀承認を得ること及び若手刀匠の技術向上を目的として、広報誌『刀剣美術』、当協会ホームページで研修生を募集し、令和元年9月25日(水)から9月28日(土)の4日間、島根県の日刀保日本刀鍛錬道場において開催しました。

本研修会は3年で修了となるカリキュラムで行っていますが、今回は第14期の1年目にあたり「鍛錬」をテーマとして講師に刀匠で無鑑査認定者二名により実施し、研修生二名、聴講生九名の参加がありました。この研修では近年のサブテーマである「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行いました。

(4) 村下養成研修会

たたら操業の日程にあわせ「日刀保たたら」において、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行いました。養成員二名の参加がありました。

3. コンクール事業

(1) 二〇一九年度現代刀職展

現代作家の技術の向上及び普及を目的に、新作名刀展及び刀剣研磨・外装技術発表会を改組、新たに現代刀職展とした作刀の部、刀身彫の部、彫金の部、研磨の部及び外装の部として白鞘の部、刀装の部、柄前の部、白銀の部の8部門について広報誌『刀剣美術』、協会ホームページ、刀

剣博物館掲示板で公募し、作刀の部、刀身彫の部、彫金の部は平成31年4月1日(月)から3日(水)まで受付、研磨の部、白鞘の部、刀装の部、柄前の部及び白銀の部は令和元年6月3日(月)から5日(水)まで受付、申請された作刀の部三六名、刀身彫の部四七名、彫金の部一四七名、研磨の部一〇点、刀装の部五五名、柄前の部一三三名、白銀の部七二点、白鞘の部一〇点、刀装の部五五名、柄前の部一三三名、白銀の部七二点、作刀の部五五名、刀身彫の部二二名、彫金の部一〇名、研磨の部五五名、柄前の部二二名、白鞘の部二名、刀装の部一〇名、柄前の部二二名、白銀の部八七名、努力賞は作刀の部一九名、刀身彫の部二二名、彫金の部四七名、研磨の部一三三名、白鞘の部二名、刀装の部一〇名、柄前の部二二名、白銀の部二七名、白鞘の部六名、刀装の部二二名、柄前の部六名、白銀の部三三名の計七九名、無鑑査による出品は、作刀の部一〇点、彫金の部二二点、研磨の部九点、柄前の部二二点、白銀の部一点でありました。

令和元年7月5日(金)午後1時から当協会講堂において表彰式を執り行い、入賞者に賞金、賞状及び副賞、入選者に入選証書をそれぞれ交付しました。また、各部門について審査員の代表が審査員講評を行いました。展示は令和元年7月6日(土)から8月18日(日)まで刀剣博物館にて、11月7日(木)から11月28日(木)まで山形県の致道博物館において巡回展を行いました。

4. 検定・資料収集事業

(1) 刀剣類の保存・特別保存審査

5月、8月、11月と2月を除き、毎月保存刀剣及び特別保存刀剣等の審査を実施し、刀剣は6月からの3カ月毎に、刀装・刀装具は4月からの3カ月毎に、該当月の指定した3日間で受付けます。受付点数に応じて審査会を複数回設け、審査は理事会の決議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に審査を行い、合格したものに

は鑑定書を発行しました。

なお、各審査月において継続的に多数の申請がある状況から、審査物件保全に万全を期すため、平成30年度よりそれまでの隔月から3カ月毎の受付に変更しています。

今年度の受付点数、合格点数は次の通りです。

区 分	受付点数	合格点数
保 存 刀 剣	七一〇六	四七四九
刀 装	三三三	一八六
刀 装 具	三七六四	二四〇一
特別保存 刀 剣	三三一七	二二五九
刀 装	一五四	一〇二
刀 装 具	一〇六二	八四一

(2) 刀剣類の重要・特別重要審査

第65回重要刀剣等審査は、10月7日(月)から9日(水)までの3日間で受け付けました。審査は理事会の議を経て会長が指名または委嘱した審査員により、審査規程に則り厳正に第1次及び第2次審査を行いました。指定品の指定書及び指定品を纏めた図譜を現在作成中です。

また、指定品の展示は令和2年1月11日(土)から2月16日(日)まで刀剣博物館において行いました。

受付点数、合格点数は次の通りでした。

区 分	受付点数	合格点数
第65回重要刀 剣	九九七	一〇一
刀 装	四五	八
刀 装 具	二八七	二九

なお、2年毎に実施する特別重要刀剣等審査は、該当年ではないため実施しておりません。

(3) 資料収集

保存・特別保存・重要等各審査の合格物件すべての調書を作成し、写真もしくは押形と共に保管し、データベースで管理しました。また過去の合格物件も順次データ化を進めております。

また、全国の重要文化財等の保管施設に職員を派遣し、刀剣押形等の貴重な資料の収集を行い、収集した資料を『刀剣美術』にて公開しました。

5. 資格付与事業

(1) 無鑑査の選任

今年度末現在、無鑑査認定者は作刀の部が一八名、彫金の部が四名、研磨の部が一六名、外装の部が一名です。

(2) 伝位授与

伝位審議会を令和元年6月、9月、12月及び令和2年3月の4回開催し、初伝位四名、中伝位四名の合計八名の合格を認めると共に、理事会等の決定により、それぞれ伝位証書を授与しました。

(3) 刀剣等指導員・刀剣等指導補助員登録

刀剣等指導員規程による指導員登録の申請が三名より提出され、いずれも刀剣等指導員規程第2条の資格を有しているため証明書が発行されました。刀剣等指導員の資格要件に中伝位以上を授与された者と規定されていることから、伝位授与と連動して指導員として刀剣文化の普及に活躍する人材を育てることを目的としています。なお、今年度は刀剣等指導補助員の申請はありませんでした。

6. たたら製鉄事業

たたら操業は、令和2年1月22日(水)から2月8日(土)まで三代実施しました。期間中は村下養成研修会とし、日刀保たたら村下を講師に村下後継者の養成を行いました。これに先立ち、操業開始前の準備として数日前より釜土の混練や本床への火入れなどを行いました。炉床の状態を整え、本操業に臨み、伝統技術の保存・伝承に努めました。

操業自体は下準備から始まり、釜作り・三昼夜操業・釜壊しを1単位つまり一代と数え、釜作り以降の作業を計3回行い、1回平均約2・5トンの鉬を生産しました。

また操業終了後からは、生産された鉬を破碎し翌年度以降の玉鋼配布準備のため等級毎に選別する作業を行いました。

操業期間外では日刀保たたら村下の指導のもと、ほぼ通年で以下の作業を行っています。①三代分のたたら炭の生産(約36トン)、②粘土の選別と確保、③注文に應じての玉鋼発送作業、④その他適宜発生する業務。さらに、生産された玉鋼について、全国の刀匠に頒布の文書を郵送しました。

7. 刀剣文化振興の助成事業

当協会の協力団体は国内に80団体、海外に4団体設立されており、全国及び海外の刀剣普及活動の拠点となっています。

〈国内80団体〉

- 日刀保根室支部 日刀保帯広支部 日刀保札幌支部 日刀保旭川支部
- 日刀保青森支部 日刀保八戸支部 日刀保岩手支部
- 日刀保秋田支部 日刀保羽後秋田支部 日刀保庄内支部
- 日刀保山形支部 日刀保米沢支部 宮城県美術刀剣保存協会
- 日刀保会津支部 日刀保福島県南支部 日刀保いわき支部
- 日刀保福島支部 新誠会 日刀保高崎支部 日刀保茨城県支部
- 日刀保茨城県西北支部 土浦亀城刀剣会 日刀保栃木支部
- 埼玉県刀剣保存協議会 日刀保千葉県東部支部 日刀保千葉支部
- 日刀保東京都支部 日刀保東京多摩支部 日刀保横浜支部 鎌倉刀剣会
- 日刀保湘南支部 日刀保山梨支部 日刀保新潟支部 日刀保長岡支部
- 日刀保富山支部 越前愛刀会 日刀保石川支部 日刀保若狭支部
- 日刀保福井支部 日刀保長野県南支部 日刀保長野県北支部
- 日刀保長野県東信支部 日刀保静岡支部 日刀保静岡東部支部
- 日刀保三河支部 日刀保名古屋支部 日刀保岐阜支部
- 日刀保三重支部 日刀保京都支部 日刀保大阪支部
- 日刀保兵庫支部 姫路しらさぎ刀剣会 日刀保奈良支部
- 日刀保和歌山支部 日刀保岡山支部 日刀保山口支部
- 広島県美術刀剣保存協会 日刀保島根支部 日刀保鳥取支部
- 日刀保香川支部 日刀保四国讃岐支部 日刀保香川西支部
- 日刀保愛媛支部 日刀保徳島支部 日刀保高知支部

〈海外4団体〉

- 日刀保北九州支部 日刀保八幡支部 日刀保博多支部
- 福岡美術刀剣振興会 福岡県文化財保存協会 日刀保筑後支部
- 日刀保熊本支部 日刀保宮崎支部 日刀保延岡支部 日刀保長崎支部
- 日刀保佐賀支部 葉隠刀友会 日刀保大分支部 日刀保大分県北支部
- 日刀保鹿児島支部
- ヨーロッパ支部 アメリカ支部 ロシア支部 イタリア支部
- (1) 協力団体で開催する鑑賞会へ講師の派遣及び鑑賞刀剣の貸与
- 1の(2)鑑賞会事業参照。
- (2) 協力団体で開催する鑑賞会へ鑑賞刀剣のみの貸与
- 令和元年度は一六件。
- (3) 協力団体で開催する刀剣類の展示会の助成及び共催
- 該当なし。

II 管理部門

1. 会員の状況 26ページ表2の通り。

2. 職員に関する事項

職員数計二九名 男子一八名 女子一名(男女共前期末比一名増)
平均年齢 男子49歳 女子46歳

3. 役員会等に関する事項

- (1) 平成31年(令和元年)度評議員会(定款第26条による評議員会)
日時 平成31年4月15日(月)
議題 ①定款の一部改正について
- (2) 令和元年度第1回理事會
日時 令和元年6月3日(月) 午後1時30分から2時30分
議題 ①平成30年度事業報告及び決算について
②定時評議員会の招集について
③二〇一九年度審査員の追加選任について

- (3) 令和元年度定時評議員会
日時 令和元年6月18日(火) 午後1時30分から2時30分
議題 ①評議員の選任について
②平成30年度事業報告及び決算について
③規則類の改正について
④役員を選任について
- (4) 令和元年度臨時理事会
日時 令和元年6月18日(火) 午後2時30分から3時30分
議題 ①会長、専務理事及び常務理事の選定並びに職務代行順位の決定について
②委員会の設置について
③規程の制定について
④無鑑査の選任について
⑤事務局長の選任について
- (5) 令和元年度理事会(定款第44条による理事会)
日時 令和2年1月17日(金)
議題 ①刀剣博物館資料収集委員会委員及び購入品基準について
②現代刀職展運営委員会委員について
- (6) 令和元年度理事会(定款第44条による理事会)
日時 令和2年3月27日(金)
議題 ①令和2年度事業計画及び予算について
②基本財産への繰り入れについて
③規程類の改正について
④令和2年度審査員の選任について
⑤現代刀職展運営委員会委員の選任について
- Ⅲ その他
- (1) 外部文化団体からの出陳要請により協会所蔵文化財のほか、玉鋼、砂鉄や、たたら製鉄の工程などのパネルを貸与しました。また各文化団体からの要請により所蔵文化財等の画像を貸与しました。

表2

会員種別	国内					海外		計
	普通会員	学生会員	維持会員	優遇会員	終身会員	普通会員	終身会員	
令和2年3月末日	3,834人	26人	3人	7人	56人	242人	17人	4,185人
昨年度との差	-129人	+2人	-2人	-1人	±0人	-31人	+5人	-156人

- (2) 刀剣博物館は海外からの来館者がさらに増加傾向にあり、協会主催の研究会に参加希望も多く、そうしたニーズにできる限り柔軟に対応して各種事業に海外居住者への利用を促進しました。
- (3) 当協会は昭和23年に東京国立博物館内において設立され、昭和43年2月に代々木の地に会館を建設して移転しました。
- 約半世紀が経過し、建物の老朽化が激しく、東京都墨田区旧安田庭園内両国公会堂跡地への新築移転計画を進め、墨田区をはじめとする関係各所との協議・検討を経て、平成28年7月に工事着工、平成29年8月に竣工、刀剣博物館は平成30年1月19日より開館し、公開承認施設としての運営に向け、関係機関のご指導を得ながら、引き続き努力してまいります。
- また、墨田区とは移転時から友好関係を構築し、合同企画の実施等連携強化を図っています。
- 令和元年度事業報告には、定款第11条に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和2年6月

貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当期末	前年度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	170,648,006	61,157,877	109,490,129
預金	44,609,248	52,217,969	△ 7,608,721
未収金	21,911,713	20,533,375	1,378,338
販売用書	86,360,182	89,891,424	△ 3,531,242
製原材	41,360	334,368	△ 293,008
前払金	39,302,584	9,277,698	30,024,886
流動資産合計	362,873,093	233,412,711	129,460,382
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	976,146,158	996,768,964	△ 20,622,806
預金	556,026,307	556,026,307	0
刀剣及び小道具	793,250,000	791,250,000	2,000,000
基本財産合計	2,325,422,465	2,344,045,271	△ 18,622,806
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	66,109,517	69,704,872	△ 3,595,355
減価償却引当資産	119,476,655	119,476,655	0
刀剣奨学積立資産	4,863,763	4,863,763	0
新刀剣博物館建設積立資産	32,635,609	22,715,609	9,920,000
資料購入資産	200,000,000	200,000,000	0
審査支援システム改修資産	34,989,900	74,208,000	△ 39,218,100
特定資産合計	458,075,444	490,968,899	△ 32,893,455
(3) その他固定資産			
建物	14,957,044	17,417,141	△ 2,460,097
構築物	547,443,361	599,964,559	△ 52,521,198
機械装置	102,643,520	108,551,267	△ 5,907,747
什器備品	8,529,805	9,868,906	△ 1,339,101
土地	43,900,617	54,791,823	△ 10,891,206
保証金	300,000	300,000	0
刀剣及び小道具	70,000	70,000	0
研修用教材	165,747,824	173,061,809	△ 7,313,985
絵画	15,367,000	15,367,000	0
図書及び押型	9,534,118	9,534,118	0
その他固定資産	8,960,000	8,960,000	0
その他固定資産合計	348,480	1,976,063	△ 1,627,583
固定資産合計	917,801,769	999,862,686	△ 82,060,917
資産合計	3,701,299,678	3,834,876,856	△ 133,577,178
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	19,292,196	33,306,581	△ 14,014,385
前受金	28,406,860	29,781,885	△ 1,375,025
預賞	2,331,599	4,465,615	△ 2,134,016
賞与引当金	8,421,912	8,199,651	222,261
流動負債合計	58,452,567	75,753,732	△ 17,301,165
2. 固定負債			
退職給付引当金	66,109,517	69,704,872	△ 3,595,355
固定負債合計	66,109,517	69,704,872	△ 3,595,355
負債合計	124,562,084	145,458,604	△ 20,896,520
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	990,949	1,320,799	△ 329,850
寄付金	99,210,720	97,376,645	1,834,075
受贈固定資産	78,000,000	76,000,000	2,000,000
指定正味財産合計	178,201,669	174,697,444	3,504,225
(うち基本財産への充当額)	(145,566,060)	(151,981,835)	(△ 6,415,775)
(うち特定資産への充当額)	(32,635,609)	(22,715,609)	(9,920,000)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	3,761,409,018	3,748,133,519	13,275,499
(うち特定資産への充当額)	(2,179,856,405)	(2,192,063,436)	(△ 12,207,031)
(うち特定資産への充当額)	(359,330,318)	(398,548,418)	(△ 39,218,100)
正味財産合計	3,939,610,687	3,922,830,963	16,779,724
負債及び正味財産合計	4,064,172,771	4,068,289,567	△ 4,116,796

正味財産増減計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	39,272	53,621	△ 14,349
基本財産利息収益	39,272	53,621	△ 14,349
特定資産運用益	916,606	811,205	105,401
特定資産受取利息	916,606	811,205	105,401
受取会費及び入会金	44,998,105	47,801,681	△ 2,803,576
会費及び入会金	44,998,105	47,801,681	△ 2,803,576
事業収益	489,872,690	540,848,405	△ 50,975,715
刀剣博物館入館料収益	32,435,529	45,961,216	△ 13,525,687
保存刀剣等鑑定会受取会費	302,978,000	338,406,000	△ 35,428,000
重要刀剣等指定会受取会費	51,382,000	92,367,000	△ 40,985,000
鑑賞会受取会費	2,983,400	3,037,200	△ 53,800
書籍売上高	12,954,759	13,504,671	△ 549,912
出版売上高	5,574,552	11,602,970	△ 6,028,418
広告料収益	12,095,120	11,559,820	535,300
伝位登録料収益	308,000	187,000	121,000
全国大会収益	0	6,921,500	△ 6,921,500
たたら事業収益	69,161,330	17,301,028	51,860,302
受取補助金等	4,979,850	3,073,199	1,906,651
受取国庫補助金	4,650,000	2,650,000	2,000,000
受取国庫補助金振替額	329,850	423,199	△ 93,349
受取寄付金	8,405,925	10,754,766	△ 2,348,841
一般寄付金	350,000	100,000	250,000
受取寄付金振替額	8,055,925	10,654,766	△ 2,598,841
雑収	4,262,751	5,988,544	△ 1,725,793
受取利息	1,013	1,662	△ 649
為替差益	24,119	0	24,119
雑収益	4,237,619	5,986,882	△ 1,749,263
諸引当金戻入	8,199,651	8,807,883	△ 608,232
賞与引当金戻入	8,199,651	8,807,883	△ 608,232
経常収益計	561,674,850	618,139,304	△ 56,464,454
(2) 経常費用			
事業費	513,335,356	482,277,646	31,057,710
役員報酬	2,992,000	3,264,400	△ 272,400
給料手当	142,341,577	129,436,229	12,905,348
福利厚生費	22,455,087	23,166,259	△ 711,172
賃借料	20,391,153	23,055,460	△ 2,664,307
旅費交通費	5,889,220	5,972,399	△ 83,179
通信搬送費	11,413,954	15,877,021	△ 4,463,067
消耗品費	7,660,259	4,010,234	3,650,025
印刷製本料	33,388,544	43,567,872	△ 10,179,328
光熱水料	6,656,700	7,295,797	△ 639,097
修繕費	13,586,585	13,655,139	△ 68,554
賃借料	18,739,925	18,858,603	△ 118,678
租税公課	26,628,500	30,469,580	△ 3,841,080
助成費	5,570,800	6,560,000	△ 989,200
支払保険料	1,671,968	3,229,533	△ 1,557,565
支書籍仕入料	5,978,511	8,062,961	△ 2,084,450
支玉鋼材費	21,467,554	14,009,106	7,458,448
支委託負担	140,967	149,247	△ 8,280
支委託費	55,445,056	4,084,308	51,360,748
支広告宣伝費	9,133,630	15,563,450	△ 6,429,820

渉外費	1,243,814	7,125,956	△ 5,882,142
雑費	2,146,028	1,089,943	1,056,085
減価償却	91,115,095	95,049,100	△ 3,934,005
退職給付費用	7,278,429	8,725,049	△ 1,446,620

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
管理費	27,763,995	30,219,340	△ 2,455,345
役員報酬	3,148,000	3,445,600	△ 297,600
給料手当	2,904,930	2,641,556	263,374
福利厚生費	1,181,847	1,219,277	△ 37,430
旅交通費	2,201,469	2,607,939	△ 406,470
通信搬送費	600,734	835,633	△ 234,899
消耗品費	666,110	348,716	317,394
光熱水繕料	578,843	634,417	△ 55,574
修繕借入料	1,181,442	1,187,403	△ 5,961
賃借保険料	1,410,532	1,419,465	△ 8,933
支払保険料	318,470	615,149	△ 296,679
顧客問料	6,049,000	5,940,000	109,000
支払負担金	63,333	67,053	△ 3,720
広告宣伝費	282,483	481,344	△ 198,861
渉外費	264,757	1,459,533	△ 1,194,776
雑費	43,796	22,244	21,552
減価償却	6,466,963	6,792,489	△ 325,526
退職給付費用	383,075	459,213	△ 76,138
会議費	18,211	42,309	△ 24,098
経常費用計	541,099,351	512,496,986	28,602,365
当期経常増減額	20,575,499	105,642,318	△ 85,066,819
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産受贈益	0	8,100,000	△ 8,100,000
経常外収益計	0	8,100,000	△ 8,100,000
(2) 経常外費用			
前期損益修正損	7,300,000	0	7,300,000
経常外費用計	7,300,000	0	7,300,000
当期経常外増減額	△ 7,300,000	8,100,000	△ 15,400,000
当期一般正味財産増減額	13,275,499	113,742,318	△ 100,466,819
一般正味財産期首残高	3,748,133,519	3,634,391,201	113,742,318
一般正味財産期末残高	3,761,409,018	3,748,133,519	13,275,499
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	9,890,000	24,332,000	△ 14,442,000
固定資産受贈益	2,000,000	25,000,000	△ 23,000,000
一般正味財産振替	△ 8,385,775	△ 11,077,965	2,692,190
当期指定正味財産増減額	3,504,225	38,254,035	△ 34,749,810
指定正味財産期首残高	174,697,444	136,443,409	38,254,035
指定正味財産期末残高	178,201,669	174,697,444	3,504,225
III 正味財産期末残高	3,939,610,687	3,922,830,963	16,779,724

財 産 目 録

令和2年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金		運転資金として	4,161,476
	普通預金	みずほ銀行 新宿新都心支店 他	運転資金として	162,290,360
	郵便貯金	代々木郵便局振替口座	運転資金として	4,196,170
	未収金		審査事業における審査料 他	44,609,248
	販売用書籍	「入札鑑定同然帳」他	出版書籍の在庫である。	21,911,713
	製品	島根県仁多郡奥出雲町	玉鋼の在庫である。	86,360,182
	原材料	島根県仁多郡奥出雲町 砂鉄	玉鋼の材料の在庫である。	41,360
	前払金		刀剣審査システムの開発費用 他	39,302,584
流 動 資 産 合 計				362,873,093
(固定資産) 基本財産	建物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	976,146,158
	普通預金	三井住友信託銀行新宿支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業の財源として使用している。	266,784,198
	定期預金	三井住友信託銀行新宿支店 他		289,242,109
	刀剣及び小道具	日本刀 他	公益目的保有財産であり、協会の事業の用に供している不可欠特定財産である。	793,250,000
	基 本 財 産 合 計			

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
特定資産	退職給付引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	職員17名に対する退職金の支払いに備えた積立資産である。	25,317,447
		定期預金みずほ銀行新宿新都心支店 他		40,792,070
	減価償却引当資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	将来の固定資産への投資のための引当資産である。	12,989,532
		定期預金三井住友信託銀行新宿支店		10,000,000
		国債		96,487,123
	刀剣学奨学積立資産	定期預金荘内銀行東京支店		4,863,763
	新刀剣博物館建設資産	普通預金みずほ銀行新宿新都心支店	刀剣博物館建設事業の寄付金である。	32,635,609
	資料購入資産	東京東信用金庫両国支店	博物館での展示、鑑賞会、研究その他に活用する資料を取得するための資産である。	200,000,000
	審査支援システム改修資産	三菱UFJ銀行本所支店	審査支援システム改修のための資産である。	34,989,900
	特定資産合計			458,075,444
その他の固定資産	建物	島根県仁多郡奥出雲町	(供用財産) うち、公益目的保有財産99.4% うち、管理目的の財源として使用する財産0.6%	14,957,044
	建物附属設備	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産94% うち、管理目的の財源として使用する財産6%	547,443,361
	構築物	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	102,643,520
	機械装置	島根県仁多郡奥出雲町 東京都墨田区横網1-12-9	公益目的保有財産である。	5,699,919 2,829,886
	什器備品	東京都墨田区横網1-12-9	(供用財産) うち、公益目的保有財産92% うち、管理目的の財源として使用する財産8%	43,900,617
	その他固定資産	東京都墨田区横網1-12-9		348,480
	土地	長野県上田市		300,000
	保証金	(株)セコム	セキュリティシステム等の保証金として預けているものである。	70,000
	刀剣及び小道具	東京都墨田区横網1-12-9 日本刀 他	公益目的保有財産である。	165,747,824
	研修用教材	東京都墨田区横網1-12-9 刀剣及び小道具	公益目的保有財産である。	15,367,000
	絵画	東京都墨田区横網1-12-9 日本画 他	公益目的保有財産である。	9,534,118
	図書及び押型	東京都墨田区横網1-12-9 網屋押型 他	公益目的保有財産である。	8,960,000
	その他固定資産合計			917,801,769
	固定資産合計			3,701,299,678
資産合計			4,064,172,771	

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金		当期消費税確定額 他	19,292,196
	前受金	個人会員 他	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する会費 他	28,406,860
	預り金	職員他	社会保険料 他	2,331,599
	賞与引当金	職員	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	8,421,912
流動負債合計				58,452,567
(固定負債)	退職給付引当金	職員	職員17名に対する退職金の支払いに備えたものである。	66,109,517
固定負債合計				66,109,517
負債合計				124,562,084
正味財産				3,939,610,687

監査報告書

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
会長 酒井 忠久 殿

令和2年6月22日

公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 田口 堯
公益財団法人 日本美術刀剣保存協会
監事 大久保 洋吉

公益財団法人日本美術刀剣保存協会における平成31年4月1日から令和2年3月31日までの監査の方法及び結果について、次のとおり報告いたします

1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会などの会議に出席し、理事及び担当者からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告等及び会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、計算書類(貸借対照表・正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について監査いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 1) 事業報告は、法令及び公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- 2) 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは公益財団法人日本美術刀剣保存協会定款に違反する事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況を正確に示しているものと認めます。

以上